

会館だより



2014年 1月号

No. 295



公益財団法人 日中友好会館



目次

年頭のご挨拶

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展「Mayu Collection 暮らす・装う・彩る 中国少数民族衣裳展」
- ・協力展「対聯の書、盛世の謳歌—歡樂春節 2014 中国新春対聯書道展」

《日中友好後楽会》

- ・新春談話会

活動記録

- ・「第3回日中国会議員・公務員書道展」北京展
- ・後楽会中国旅行
- ・小田原ホームステイの感想
- ・後楽会(中国)友好聯誼会年次総会、新疆分会成立
- ・国会見学の感想
- ・「日中友好岸関子賞」第一回授賞式を終えて
- ・藤沢市訪問
- ・防災体験
- ・後楽寮紅葉狩り
- ・「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第7陣 上海市・江蘇省の大学生が来日
- ・「JENESYS2.0」中国高校生訪日団第1陣が来日
- ・「JENESYS2.0」第十八回中国教育関係者代表団一行29名が来日

会館行事と人の動き

表紙

イ族の女性衣装

(日中友好会館美術館にて2014年1月29日～2月26日開催予定の「暮らす・装う・彩る 少数民族衣裳展」で展示いたします。)

年頭のご挨拶



(公財) 日中友好会館
理事長 武田勝年

皆様、明けましておめでとうございます。

今年は馬年、そこで「龍馬精神」の意味を調べてみました。辞書によると「龍馬」は、伏羲の時代の伝説上の動物「神馬」とありますが、華人世界で使われる「龍馬精神」は、「年老いても壮健な精神」を称揚する表現だそうです。坂本龍馬とは関係ありません。昨年古稀を迎えた私としては、この精神を忘れず、「馬力」を蓄え、若い世代に負けない様に精進して、当会館を支援して下さる多くの方々の要望や期待に応えなければならないと改めて思った次第です。

一昨年4月、当会館が公益財団法人に移行して早くも1年9ヶ月が過ぎました。振り返りますと、一昨年9月、日中両国が封印していた領土問題が顕在化し、青少年交流、文化交流、中国語教育の各事業にも大きな影響がありましたが、昨年夏以降交流事業は徐々に回復の兆しを見せております。樂觀は許されませんが、今年は学生・青少年交流や文化関係催事は昨年以上の規模で実施することが出来るものと期待しております。又、後楽寮改修工事の進捗に伴い、中国留学生の生活環境も大きく改善されるものと思っております。

昨年9月20日、東京プリンスホテルで開催した「日中平和友好条約締結35周年記念・日中友好会館設立30年感謝会」には、多くのご来賓にご参加頂き本当にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。会館役職員全員が智慧を出し合って企画し、感謝の気持ちを込めて懸命に準備致しました。不行き届きな点は多々あったと思いますが、意義のある催しを開催できたものと思っております。

会館の管理・運営面では、運営の規範化・透明化に取り組み、会館役職員が生き生きとして業務に取り組むことができる体制作り注力してまいりましたが、まだまだ道半ばと思われまします。実施事業に就いては、引き続き「民間」、「草の根」そして「青少年」をキーワードとして、無理な背伸びはしないことに留意しながらも、新しい事業の創出も模索して行きたいと思っております。

皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。



(公財) 日中友好会館
中国代表理事 王昆

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年、公益財団法人日中友好会館の事業と運営に多大なご支援とご協力下さった関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

お陰様で昨年は、日中平和友好条約締結 35 周年と設立 30 周年の節目として、さまざまな事業を実施することができました。弊会館は中日友好事業拠点地として、中日青少年交流、中日文化交流、中国からの留学生受け入れと、日中学院の中日友好人材育成などを中心に、全役職員一同、努力して参りました。

ご承知のように、中日両国は昔から親密な関係を持っており、歴史的、文化的、感情的にも、中日両国の繋がり深いものです。また国交回復から 40 数年間、目覚ましい成果を収めました。しかし、過去の一年、両国間でいろいろなことがありました。これについて、私はどうしても信じがたく、理由も考えられないことです。

中日両国は永遠の近隣です。中国では「遠い親戚より近くの隣人」という諺があります。二千年の中日往来の歴史から見れば、両国人民は「和すれば即ちともに立ち、戦えば即ちともに傷つく」というものです。互いに学び合い、互いに補い合うことは、両国民の共通の利益と長期的な利益に合致すると共に、地域の平和、安定と発展にも有益であります。両国間の問題は避けられませんが、肝心なのは、一日も早く関係改善することです。

微力ながら今年も、我が会館は中日友好の架け橋として、皆様と共に力を合わせ、中日友好事業を着実に実行し、中日関係を回復させるための一助となるよう、尽力して参りたいと思います。

● 行事案内 ●

日中友好会館美術館

◆主催展

「Mayu Collection 暮らす・装う・彩る 中国少数民族衣裳展」

会 期：2014年1月29日(水)～2月26日(水)

時 間：10:00～17:00

入場料：無料 休館日：月曜日

主 催：公益財団法人日中友好会館

協 力：アートスペース繭

後 援：中国大使館、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、
(一財)日本中国文化交流協会、(社)日中協会

日中友好会館主催の新春展は、長年布に関わるお仕事をなさってきた「アートスペース繭」代表の梅田美知子さんの少数民族衣裳のコレクションを展示します。

梅田さんの感性で集められた衣裳や布製品は、雲南省や貴州省など中国西南部のミャオ族、ヤオ族、イ族、チワン族などのものから、海南島のリー族のものまで色とりどりです。

染め、織り、刺繍・・・衣裳にほどこされた手仕事の素晴らしさをお楽しみください。

会場内では、独特な祭りや暦など少数民族の暮らしの様子も併せてパネルでご紹介します。



パイ族 女性衣裳（貴州省）



イ族 男性の上衣（雲南省）

●ギャラリートーク：1月29日(水) 14:00

「一点一点といい出会いがあった」という出展者の梅田さんが、ご自身のコレクションや少数民族の布に対する想いをお話しします。

※ 予約不要、参加無料



●主催展同時開催イベント

文京コミュニティーコンサート 「セーンジャー馬頭琴コンサート」

日時：2014年1月31日（金）13:00～（約1時間）

（公財）文京アカデミー主催のミニコンサートを春節（中国のお正月）にあわせて開催します。

出演は、内モンゴル出身の馬頭琴奏者のセーンジャー氏です。
事前申し込みは必要ありません。直接美術館へお越しください。

座席は30席程度ご用意しております。



◆協力展「対聯の書、盛世の謳歌—歡樂春節 2014 中国新春対聯書道展」

会 期：2014年1月14日(火)～1月18日(土)

時 間：10:00～17:00（最終日は16:00まで）

入場料：無料

主 催：中国文化部

運 営：国立中国美術館、（公財）日中友好会館

後 援：中国大使館、（公社）日中友好協会、日本国際貿易促進協会、（一財）日本中国文化交流協会、日本友好議員連盟、（一財）日中経済協会、（社）日中協会、日本華人華僑聯合總會
（一部申請中）

※日程やイベントに変更が生じる場合がございますので、必ず事前にホームページにてご確認ください。

開幕式：2014年1月14日（火）15:30～

国立中国美術館 胡偉副館長をはじめとする代表団が来日し、セレモニーを行います。

開幕式後、関連イベントを開催します。

16:00～ 来日の書道家によるギャラリートーク

16:30～ 来日の書道家と来場者による交流揮毫会

参加予約不要、ぜひご来場ください。

“春節”は中国で最も重要で伝統的な祭日です。2010年の春節より、中国文化部及び海外各地の文化機関では、「歡樂春節」と題した大規模な文化交流イベントを開催し、各国の国民とともに農曆の春節を祝い中華文化をご紹介してまいりました。

“対聯（たいれん）”は楹聯（えいれん）とも言われ、2句で一組の言葉を赤い紙に書いて門の左右に貼る中国独特の文化です。特に春節を祝って貼ることが多く、中国社会の特色ある風習として現代でも広く行われています。今回は、中国書法家協会の会員などの書家による対聯作品約40点を展示します。

書家たちが対聯に表現する素晴らしい書をご堪能ください。

【お問合せ】 （公財）日中友好会館 文化事業部

電話：03-3815-5085（平日9時～17時） e-mail: bunka@jcfrc.or.jp

日中友好後楽会

◆ 新春談話会

日時：1月17日（金）
17：30より（受付17：00～）
会場：レストラン「馥」（会館1F）
参加費：会員 2000円/人

2014年最初の後楽会行事は、毎年恒例の新年会です。会員、寮生が多く集まって賑やかに立食パーティを行いたいと思います。（講義はありません。）この機会に2014年の行事へのご希望、ご意見などもお聞かせ下さい。皆様奮ってご参加ください。

【お申込み・お問合せ】

後楽会事務局 小林、大竹、緒方
電話：03-3811-5305
FAX：03-3811-5263
メールアドレス：kourakukai@jcfcc.or.jp

● 活動報告 ●

◆ 「第3回日中国會議員・公務員書道展」北京展

2012年度催事として開催した「第3回日中国會議員・公務員書道展」の北京展が、2013年11月3日～5日、北京市内の政治協商会議展示ホールにて開催された。東京展にて展示した日中両国国會議員・公務員の約100点の書道作品を展示した。

11月3日の開幕式に合わせ、出品者でもある当会館の江田五月会長をはじめ、水岡俊一参議院議員、自見庄三郎元議員及び武田勝年理事長ほか関係者が11月2日～4日に訪中した。開幕式では、江田会長の挨拶、三氏と中国側代表者によるテープカットが盛大に行われた。引き続き行われた交流揮毫会では、中国側出品者と書を通じた交流がなされた。



開幕式

また、北京滞在中には中日友好協会 唐家璇会長、全国人民代表大会常務委員会 曹衛洲副秘書長、中国城郷発展国際交流協会 孫曉郁会長、日本大使館 木寺昌人大使ほか現地関係者と面会し、今後の日中友好交流についての在り方や考え方などの意見交換が行われた。

（文化事業部）

◆後楽会中国旅行

今年度の後楽会中国旅行は、「雲南省茶馬古道をたずねる旅」と題し、雲南省麗江、大理、昆明を巡る7泊8日の旅程で行いました。



玉龍雪山 雲杉坪にて

1日目

11/18 朝、成田より北京経由、四川省成都へ、ホテルへ移動

2日目

11/19 朝、国内線にて麗江へ、着後、麗江市内見学(玉泉公園(五鳳楼)、トンパ博物館、麗江古城、木府)

3日目

11/20 午前、玉龍雪山へ、乗り合いバス・ロープウェイにて標高3200mの雲杉坪へ、散策・写真撮影。午後、白沙村(白沙壁画)、束河村を散策後、茶馬古道博物館見学

4日目

11/21 朝、麗江を出発、バスにて長江第一湾、石鼓鎮、沙溪古鎮を散策。夕方、大理到着

5日目

11/22 大理市内見学(大理白族自治州博物館、段氏絞り染め工房、喜洲古鎮にて民族歌舞鑑賞、崇聖寺三塔、大理古城・洋人街)

6日目

11/23 大理を出発、バスにて昆明へ向かう途中、雲南駅古鎮見学。昆明にて西山龍門石窟見学。夜は元後楽寮生3名と交流夕食会

7日目

11/24 雲南省博物館、石林見学。

8日目

11/25 朝、昆明より北京経由成田空港へ帰国。

今回は16名の参加でした。世界遺産である麗江古城をはじめ、茶馬古道の宿場として栄えた古鎮を多く巡りました。ナシ族、ペー族、イ族などの少数民族の独特な文化が色濃く根付いた地域の博物館でしっかりとその文化を学びながら、木造瓦屋根の家が立ち並ぶのんびりした空気が流れる村で、参加者は建築や文化、雰囲気存分に味わいました。昆明市では元後楽寮生3名と交流夕食会を開き、日本滞在中の思い出話や現在の生活などについて話に花を咲かせていました。参加者の皆様にはこの場をお借りして道中のご協力に御礼申し上げます。

来年の企画はこれからですが、内容を充実させながら、ゆったりした旅を企画したいと思います。どうぞご参加下さい。



元寮生との交流夕食会

(後楽会事務局)

◆小田原ホームステイの感想

11月2日から三日間、私は寮生の梁成剛、徐柏剛、孔曉鑫と一緒に神奈川県小田原市にある小嶋先生のお宅でホームステイを体験してきました。

鴨宮駅についたのは2日の夕方でした。小嶋先生が既に改札口のところで待っていてくださいました。簡単な挨拶をしてから、駐車場で奥さんと合流し、お宅に伺いました。部屋にきれいに敷いてある分厚いお布団を目にして、胸がぐっときました。それから夕飯は奥さんの手作りの美味しい梅酒を飲みながら、釣ってきた新鮮なイカ、また日本の伝統料理—すき焼きをいっぱいごちそうになり、大満足でした。美味しい食事とお話をしているうちに、皆さんは段々と親しくなっていました。



小田原城にて

二日目は小嶋先生が作ってくださった朝食を食べた後、みんなで一緒におにぎり作りを体験しました。それから奥さんが用意してくださったお弁当やお水等を持参して、箱根大名行列、また小田原城へ見学に連れて行っていただきました。夜は皆さんと一緒に餃子を作りました。孔さんは皮を作るのがとても上手で、奥さんも一緒に作り方を楽しんで覚えました。そして私は水餃子と焼き餃子のみな

らず、蒸し餃子も作って召し上がっていただきました。自分の大好きな蒸し餃子のおいさを奥さんが共感して、喜んでいただいて、よかったと嬉しく思いました。

三日目はあいにく雨が降っていたので、残念ながら、みかん狩りができませんでした。しかしその代わりに、日本の琴を弾かせていただいたり、教育の事や小嶋先生が携わっているジャパンエイペックスクラブの事業に関するお話を聞かせていただいたりして、教育や国際協力に関心を持つ私に多くの示唆を与えてくださいました。

あっという間に三日間を過ごしましたが、質素で落ち着いた生活の中で癒されました。距離感が少なく、本当に家族のように接していただきましたので、長い間続いてきたホームシックも解消したような気がしました。そしてもう一つですが、お二人が長年変わらず、尊重し支えあうお姿を拝見して、感動せずにはられませんでした。短い間でしたが、今後も是非交流を深めていき、色々学びたいと思います。

(後楽寮生 張辰嬌)

◆後楽会(中国)友好聯誼会 年次総会、新疆分会成立

2011年に後楽寮OB・OG組織である、後楽会(中国)友好聯誼会の成立以来、今年度は山西省河曲県の小学校への援助活動や留学中にお世話になった方々の北京ホームステイが実現できました。

今年の年次総会は11月9日に北京郵電大学科技大廈にて開催されました。日中友好会館からは武田理事長と留学生事業部の田辺部長代理が参加し、元会館中国代表理事であり後楽会(中国)の顧問の呉從勇氏や元会館職員、寮生など100名が集まり、大いに交流を深めました。

これにさきがけ、10月30日にウルムチの八楼（崑崙大酒店）にて、後楽会（中国）初の分会である新疆分会が成立しました。新疆ウイグル自治区からは1989年に留学生の受け入れをはじめ、現在では約120名の留学生が後楽寮を巣立っていきました。中には親子で寮生という方もいます。会には北京から羅民会長と李澤秘書長、会館からは留学生事業部の陳副部長と田辺部長代理が参加、30名以上の元寮生が集まり、分会の成立を祝いました。



挨拶をする後楽会（中国）友好聯誼会の羅民会長

会では賽力克・馬高維亜新疆分会会長と羅民後楽会（中国）会長の挨拶があり、新旧の寮友の久しぶりの再会と新しい出会いがあり、終始明るく楽しい新疆ならではの雰囲気でした。賽力克会長と数名の新疆分会の方は11月9日の年次総会にも参加し、北京で初の分会成立の報告をしました。

年次総会では内モンゴル、上海、河南省からの参加もあり、新疆分会の成立を聞き「次は是非自分の所に分会を！」と思った方もいたようです。

来年も新たな分会の成立と元寮生のネットワークを広げるため留学生事業部でも協力していきたいと思っています。

（留学生事業部）

◆国会見学の感想

外国を見る眼は、見られる側よりも、見る側の関心や問題意識を表していることが多いと思う。11月19日（火）、秋晴れの穏やかな日。後楽寮の寮生として日本国会見学のチャンスに恵まれ、自分の目で日本政治の最高機関を見てきた。もともと国際政治を専攻している私は、数多くの場合は理論的な講義を取って、学術研究を行うので、実地を見学することは初めての体験であった。

10時頃、今回見学のチャンスに恵まれた東京都内各大学で留学している後楽寮生たちは衆議院第二議員会館の前に集合した。中国留学生友の会の幹事さんがわれわれを迎えて丁寧な挨拶をしてくださった。そして野田毅衆議院議員夫人は中国の若者として中日友好の未来を作るため見学を楽しんでくださいとみんなを励ましてくださった。

それから私たちの国会見学が始まった。国会議事堂の全体に関する第一印象は一国の威信をかけて建てられた重厚壮大な建物だ。内部に入ると、芸術的なデザインはいたるところで見られた。中央広間は大理石の柱が並び、天井と壁には色鮮やかなステンドグラスがはめ込まれ、四方の壁には春夏秋冬の風景が描かれている。中央広場は銘柱や壁、階段の手摺りの石材には各種の大理石が用いられ、特に床を見ると数多くの色の大理石で作られた巨大なモザイクタイルで見事な模様が描かれている。石材もさることながら、議事堂の金属彫刻（金工）もすばらしいものばかりだ。各部屋のシャンデリアや、壁のブラケットもそれぞれ異なるデザインで、空調の排気口、扉のノブ周辺の細かいところにまで装飾がゆき届いて、目に止まるものすべてが美術品・工芸品といった感じた。石材、金工に続いて、木材の彫刻も見過ごせないと思った。衆参両院の本会議場の、議長席、演壇周辺、壁面、

扉の木彫も見ごたえあるものばかりだ。議事堂で日本工芸の粋が集約されているところは御休所、あるいは日本の天皇の控え室というべき部屋である。折上げ格天井の錦織、暖炉の前や長押しの縁を留める金色の透かし彫り、手の込んだ螺鈿の扉、カーペット、カーテンなどいずれも日本芸術工芸の最高な表現だと思っている。国会議事堂から出た国会構内の遊歩道の両側にはそれぞれの「都道府県の木」が植えられていた。北海道から沖縄まで、気温はまちまちのはずなのに、それぞれの地域の木がちゃんと育っているのがなんだか不思議だと思った。

見学が終わった後、衆議院議員会館の食堂へ行って野田衆議院議員夫人と一緒に昼ご飯をいただいた。野田夫人は私たちの留学生活にすごく関心を持っていた。そして、楽しい食事中に野田夫人からおいしいみかんをいただいた。夫人は本当に優しい人だと思った。



中国留学生友の会の方と寮生

今回、中国留学生友の会のおかげで国会見学に参加させていただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。ありがたい気持ちで立派な建物を見て、中日友好に熱心な日本の方と話し合っていると、歴史の重みと中日両国友好の責任感でパワーを授かった気がした。

(後楽寮生 王夢雪)

◆ 「日中友好岸関子賞」 第一回授賞式を終えて

2013年11月19日、日中友好会館において、第一回「日中友好岸関子賞」の授賞式がとりおこなわれた。この賞は、かつて「五族協和」を夢見て「満洲国」に渡り、非業の死を遂げた一人の日本人官僚の妻として、激動の歴史を生きた女性岸関子の「日中友好」の志を継ぐために設立されたものである。

関子は娘たちや孫たちに「日中友好」の大切さを教えただけでなく、廖承志先生の依頼に応じて北京飯店のコックさんたちに日本料理を教え、文化大革命後いち早く同ホテルに日本料理店を開設するために力を尽くすなど、自らも「友好」を实践した。没後、その志を継ぐために、関子の残したささやかな貯金を基金として、中国の東北地方からの留学生を励ますため「日中友好岸関子賞」が設立されたのである。

毎年、中国の東北地方から日本に留学し、人文社会系の大学院で学ぶ学生の修士論文の中から、公募によりすぐれたもの2篇を選んで表彰し、副賞としてそれぞれ20万円を贈呈するものである。

本年度は、応募論文9篇の中らつぎの2篇が選ばれた。

・譚娟（女） 遼寧省出身 お茶の水女子大学大学院人間文化創成学研究所

《「満洲国」における中国人女子教育——中等教育を中心に》

・呂曉静（女） 遼寧省出身 学習院大学大学院人文学研究科

《秦・漢時代における渤海湾地域の漁業について》

譚娟さんの論文は「植民地」という形での

「近代化」の問題を、主体的な「女性解放」という視点から取り上げ、さまざまな問題提起をおこなっている。これまで日本人研究者によってあまり取りあげられてこなかった分野を取りあげたこと、当該地域政府の資料や校友会雑誌などを発掘し、よく分析している点などが高く評価された。

呂曉静さんの論文は、人間の生活にとって重要な生業であるにもかかわらず、これまで中国経済史の分野においてはほとんど研究されてこなかった漁業に注目し、農耕文明の統一権力である秦漢帝国が、先住民族の「海域」をどう支配していったのかを論じている。資料はまさに博引旁証、文献史料に記された断片的記述から絵画・石磚の記録に及ぶ。中国経済史研究の欠を補い、より多面的な中国社会像を構築していくための一つの可能性を示したとして、高く評価された。



受賞者と審査委員

2 篇の受賞論文のほかに、本年度は、日本と中国の恥意識や「公共の場所」についての認識の違いをさぐった劉健さん（女、筑波大学人文社会科学研究科、黒龍江省出身）の論文《恥意識から見た日本人と中国人の公共の場における情報行動——携帯電話通話行動の比較を中心に》に対して、独自の調査にもとづく量的データの収集・分析や、社会心理学

的な研究の手順の堅実さが評価され、奨励賞として10万円が贈呈された。

西原春夫審査委員長から賞状と副賞および奨励賞が贈呈されたあと、日中友好会館豫園で祝賀会が開かれ、受賞者たちは審査委員たちと懇談する機会を持った。

（岸陽子）

◆ 藤沢市訪問

11月22日、私は後楽寮の皆さんと一緒に藤沢市に行きました。私にとってそれは初めてではなく、日本に来たばかりの時、一度鎌倉に遊びに行ったことがあります。私は江ノ電に乗って、藤沢市に着きましたが、その時はすでに夜八時くらいでどこにも行くことができず、それに天気も良くなかったので、とても残念でした。

でも今度の藤沢への旅は、天気はすごく良く、富士山もはっきり見えるほどの晴れ模様でした。私は映像や画像以外に初めてこのような富士山を見て、非常に感動的でした。私達はまず聶耳記念碑に行きました。聶耳は友人と遊泳中の鵠沼海岸で帰らぬ人となりました。1949年に藤沢市民有志により聶耳を記念して、1954年にこの記念碑が建てられました。一度台風で記念碑が流失しましたが、いまは再建されました。聶耳は中国の国歌「義勇軍行進曲」の作曲者であり、そして藤沢市と聶耳の誕生地昆明は姉妹都市です。なんか不思議な縁で中日の間が繋がっているのを感じます。

その後、私達は新江ノ島水族館を見学し、江ノ島展望灯台も登りました。水族館はあまり大きくないですが、とても凝ったものでした。綺麗なクラゲを見ると、本当に心が癒されます。展望灯台から見た風景もすごく美しいです。午後にあズビルという企業を見学して、藤沢市は美しい景色だけではなく、生産・

研究開発的な活力も満ちあふれています。



聶耳記念碑保存会古橋事務局長
による解説を聞く寮生

私にとって一番印象が深かったのは、やはりそば作りと寿司作り体験です。いつも学食でそばを食べ、寿司も人気の日本料理としてよく食べますが、自分の手でそばと寿司を作るのは以前想像もしなかったです。私は不器用なので、作ったものの形はちょっと可笑しいけれど、素材が新鮮で、自分の労働の成果でもあったので、特に美味しいと思いました。これは特別な日本文化の体験の一種ではないでしょうか。



初めての寿司づくり体験

今回の藤沢市見学の機会を提供していただいた藤沢市観光協会と日中友好会館のみなさま、誠にありがとうございました。私は今回

の写真を微博（中国版ツイッター）に書き込んだら、友たちに「羨ましいな〜」と言われました。機会があれば、私はまた藤沢に行きたいです。そしてこの日本の都市の魅力を中国の皆さんにたくさん紹介したいと思います。（後楽寮生 李菁）

◆防災体験

11月23日（土）、留学生事業部の陳先生の引率下、約20名の後楽寮生は池袋防災館へ防災体験に行った。今回の防災体験ツアーは午後3時から5時までの2時間コースで、地震、消火、煙避難、防災アニメの四つを体験した。

1. 地震

日本は世界有数の地震が多い国である。地震が起きたらどのように身を守るかということが大事である。今回の地震体験を通じて、地震が来た瞬間、家で身を守るポイントがよく分かった。

① 地震の時、自分の身を自分で守るのは一番大切である。

揺れを感じたら、周囲の椅子などを避けて、テーブルの下にもぐって脚の上部をしっかりと握り、頭を座布団等で保護し、揺れが収まるのを待つ。

② 火を消すこと

動ければ、すぐにガスやアイロンなどの火を消す。但し、揺れが激しい間に無理して火を消そうとしない。不安定な状況では熱湯の入ったヤカンを溢したりして火傷を負う危険がある。

③ 逃げ道の確保

ドアや窓を開けて外への逃げ道を確保する。

④ 周りの人の安全確認

救援の人がまだ来ない時、自分の身を守った上で、周りの人を助けることも大切である。

2. 消火

地震は国や場所により発生頻度が違うが、火災はどこも国や場所でもよく起きる災害である。火災が発生した瞬間、どのように対応するかということは大事である。火災が発生する時、消火器の使い方を身に付けなければならない。今回の消火体験を通じて消火器の使い方のポイントを簡潔で分かりやすく教えていただいた。

また、火事が発生した時、周囲に「火事だ〜」と大きな声で周知に知らせることが大事である。火が天井まで燃え広がった時にはすぐに逃げ、避難するときは煙の拡散・炎の拡散を抑制するように、燃えている部屋のドアを閉めることは大切である。

3. 煙体験

火より煙のほうがさらに怖い。煙には有害な一酸化炭素が含まれるため、火災時に煙は避難の障害となる。火災の時に発生した煙は、毎秒0.3メートルから0.8メートルくらいの速度で廊下等を横方向に流動し、上方向への流動速度は、毎秒3.0メートルから5.0メートルくらいの速度で上昇していく。人間が階段を上下する歩行速度は毎秒0.5メートル程度であるから、階段で煙の上昇から逃れるのは困難である。それゆえ、煙から避難することが大事である。今回の体験では、無害の煙の中で、ハンカチなどで口を覆って、体を低くし、周りの壁などを触りながら、出口を探すということを行った。避難の原則は押さない、駆けない(=走らない)、しゃべらない、戻らないの「お、か、し、も」である。

火事や煙の避難時、注意点がいくつかある。避難する時、子供や体が不自由な人やお年寄りを優先にさせる、エレベータを使用しない、煙が発生した部屋のドアを閉める、煙が広がり、ハンカチを持っていない場合、袖や帽子などを使っても構わない。但し、ティッシュ

などの紙製のモノは使わず、本当に何も無い場合は大きなゴミ袋に新鮮な空気をいれて頭を被っても構わない。要するに本当の火災の現場でパニックに陥りやすく、すぐに反応できるような避難方法を活かして、身を守るのには一番重要である。



池袋防災館にて

4. 防災アニメ

最後の体験は防災アニメを見ることである。これは主に2011年3・11東日本大震災をアニメ化したものである。新宿の揺れる高層ビル、宮古市の堤防で起こる津波、釜石市の押し流される家屋、気仙沼市の引き波、市原市の製油所で爆発したガスタンク、東京都心にあふれる帰宅困難者…3・11の大地震・津波の怖さや、人間のちっぽけさ、生命の弱さを痛感した。ここで、3・11大震災により犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げる。

『平家物語』に述べてあるように「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」、災難無常なる世界で身を守ることがさらに重要になる。防災の素人の我々にとっては、今回の防災体験が本当に貴重な体験であった。わずか2時間であるが、将来不幸にも万一発生した地震や火災の現場で、どのように対応するかということ、さらに災難が発生した時、自分の命を守った上で、周囲の人を助けてあげる重要



性が良く分かった。これは今回の防災体験からの収穫ではないかと考えた。

(後楽寮生 孫振)

◆後楽寮紅葉狩り

11月24日、青空が澄み渡って日差しが暖かい小春日和のいい時節に、後楽寮恒例の紅葉狩りが行われた。留学事業部の指導のもとで、第38期寮生委員会は今回の活動を計画し、実行した。今まで寮の近くで行われたことと違い、今回の紅葉狩りは新宿御苑で行われ、コックさんを含めて90名の寮生が参加した。

朝10時、寮生は組ごとに集合し、弁当をもらって秩序を守って出発した。到着そうそう、みんなはすでに御苑内の紅葉にひきつけられ、つぎつぎと写真を撮り始めた。集合地でみんなはブルーシートを敷いて、座って弁当を食べながら歓談した。寮生委員会委員長の陳略峰さんはその場を仕切って、後楽寮恒例の活動を紹介した。寮生の徐方さんと李海鵬さんはギターを引きながら歌を歌って、それぞれ「桜」「モナリザの微笑み」「難道」などを歌って、その場を盛り上げた。また、音楽専攻の寮生孟繁傑さんは「高山上の流雲」を歌い、みんなを魅了した。後楽寮の最も小さい寮生陳鹿雪さんも連続前転を披露し、みんなの喝采を博した。次に、寮生はそれぞれ自己紹介をし、お互いの交流を深めた。

最後に、留学事業部の陳先生の挨拶で今回の活動を締めくくった。陳先生は今回の紅葉狩りの場で改めて新入寮生に歓迎の意を表し、今回の活動は新入寮生にいち早く寮生の輪に入ってもらい、新入寮生と在寮生との交流をいっそう促したと評価した。また、これからもみんなの寮生活動の積極的な参加、暖かで活発な寮生活の構築への期待を表した。



参加者全員で記念撮影

今回の紅葉狩り活動で、寮生のみんなが忙しい勉強や研究から心身ともに休まり、日本独特の紅葉文化を堪能し、寮生間の交流も更に深めた。

(後楽寮寮生 呂天雯)

◆「JENESYS2.0」 中国大学生訪日団第7陣 上海市・江蘇省の大学生が来日

10月28日から11月4日までの8日間、中国大学生訪日団第7陣(団長＝劉子敬 中国日本友好協会理事、中国人民対外友好協会理事)が来日した。本団は、上海市及び江蘇省の大学に通う大学生・大学院生と引率の計70名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。



歓迎会で挨拶する劉子敬団長

訪日団は、東京をはじめ、神奈川県、静岡県を訪問し、日本の大学生と交流したほか、企業視察、地方自治体によるブリーフなど「クールジャパン」をテーマにさまざまなプログラムに参加し、政治・経済・歴史・文化・社会に関する包括的な対日理解を深めた。

「初音ミク」を通して日本のマンガ・アニメ・ゲーム文化の背景を学ぶ

訪日団は、明治大学国際日本学部森川嘉一郎准教授より「初音ミクと日本のマンガ・アニメ・ゲーム」というテーマで講義を受けた。「初音ミク」は最新のヴォーカロイド技術を使って作られ、インターネットの動画配信サービス「ニコニコ動画」により広まり、世界中を席卷した日本発のヴァーチャルアイドル。新しい技術やサービスによって作られたように見える「初音ミク」も、日本のポップカルチャーの歴史を背景として生まれたものだということを学んだ。

日本の大学生と交流、合宿でより深い相互理解を実現

学生交流の1回目は神奈川大学を訪問し、多くの学生と交流した。初めは緊張していた団員たちも、すぐに打ち解け、日本の学生生活やファッションやアイドルの話で盛り上がっていた。大学を挙げての温かい歓迎に、団員たちはとても感激していた。

2回目は東京で、日中の友好交流活動に取り組んでいる学生団体である、京論壇と日中学生交流団体 freebird のメンバーを中心とした日本の学生と、国立オリンピック記念青少年総合センターなどを会場に1泊2日の合宿交流を行った。メインとなる意見交換会は、グループごとにテーマを決めて討論した。各グループのテーマは、日本と中国の「幼少期・高校生活・大学生活」、「スポーツ分野での人材育成の仕組み」、「お正月の過ごし方」、「ト

イレ」などの違いについて、また「人生の目標」、「明日世界が終わるとしたら何をするか」などさまざまで、夜遅くまで翌日の発表に備えて準備をしていた。翌日は、前日の意見交換の成果を日本語と中国語で発表した。各グループとも絵やパフォーマンスを交えるなど工夫を凝らし、熱のこもった発表だった。合宿の始めと終わりには、浅草寺と明治神宮を散策し、ともに東京の名所と日本文化を楽しんだ。最後には抱き合って別れを惜しむ日中の学生の姿が見られた。



意見交換した成果を発表する団員

一連の交流活動を通じて団員たちは、日本の同世代に対する理解を深めるとともに、同じ目的に向かって奮闘することで、国境を越えた信頼関係を構築できたようだった。

日本の地方の魅力と技術に触れる

クールジャパンを理解・体験する活動としては、神奈川県の観光や産業の魅力についてのブリーフを受けた後、実際に芦ノ湖や箱根大涌谷、今年富士山とともに世界遺産登録された三保の松原を参観した。曇りがちなあいにくの天気だったが、芦ノ湖で一時雲が晴れ、富士が雄大な姿をのぞかせた時は歓声が上がった。また、寄木細工や静岡名産のみかん狩りなども体験し、大都市以外の日本の魅力に

触れた。

その他、東京では凸版印刷(株)の印刷博物館を訪れ、印刷技術の歴史や、技術を生かした歴史史跡保護・研究への貢献について理解した。静岡では静岡浄化センターと榊明治の東海工場を訪れ、水の再生処理や食品工場の衛生管理などについて学んだ。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆ 「JENESYS2.0」 中国高校生訪日団第1陣が来日

11月19日から11月28日までの9日間、中国高校生訪日団第1陣(総団長＝王秀雲 中国日本友好協会・副会長、団長＝張孝萍 中国日本友好協会・政治交流部副部長)が来日した。本団は、中国北京市内の3校から選抜された高校生と引率の計62名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。



安倍昭恵内閣総理大臣令夫人(前列中央)
と語り合った歓迎会

訪日団は、東京をはじめ、京都府、滋賀県、大阪府を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、京都府・滋賀県に於ける学校

交流やホームステイ等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めた。また、第十八回中国教育関係者代表団と合同で実施した歓迎会は、安倍昭恵内閣総理大臣令夫人や程永華中華人民共和国駐日本国特命全権大使が出席したほか、日中双方の高校生によるパフォーマンスも行われ、賑やかな雰囲気の中、交流や歓談が行われた。

日本のバリアフリー社会について学ぶ

訪日団は外務省において、(公社)かながわ福祉サービス振興会人材育成グループ介護ロボット推進課の関口史郎氏より「介護分野におけるロボット活用の取り組み及び今後の展望」というテーマで講義を受けた。講義では日本の最先端技術である介護ロボットを生かした介護者と介護される側のメンタル面も含めた介助支援の取り組みを学んだだけでなく、後半に大阪のATCエイジレスセンターを視察することで日本のバリアフリー社会について更なる理解を深め、日中両国が迎える高齢化社会の課題解決に向けて考えるよい機会となった。

高校生との交流やホームステイを体験

京都府では、京都府教育委員会小田垣勉教育長を表敬訪問した後、京都府内の高校5校に分かれて訪問し、各校で熱烈的な歓迎を受けた。英会話や体育、着物の着付けなどの授業に参加したり、茶道や柔道、剣道などの部活動を体験したほか、日本と中国の高校生活について意見交換したり、福笑いや花札など日本のゲームを一緒に遊んだりと多彩なプログラムに参加し、同世代の日本高校生と親睦を深めた。交流の場面では、最初は緊張していたものの高校生同士、スマートフォンやインターネットを駆使して同世代共通の話題で盛り上がり、どの学校でも笑顔に溢れていた。

ホームステイは交流した日本高校生の家庭

のほか、一部は滋賀県日野町の一般市民家庭で実施した。各地域の歴史、文化、自然を感じながら日本の家庭でホームステイを経験し、ホストファミリーの温かいもてなしを受け、別れの場面では、日本の友人、お父さん、お母さんと抱き合っただけを惜しむ姿が印象的であった。



自ら収穫した野菜で昼食作りを体験

そのほか一行は、京都の河村能舞台にて「能」の体験を行い、伝統文化を継承し守ることの大切さを理解した。また、金閣寺、嵐山、京都国際マンガミュージアム、大阪城、パナソニックセンター大阪、大阪市環境局舞洲工場（ゴミ処理施設）、大阪市立阿倍野防災センター、ダイハツ工業(株)池田工場・ヒューモビリティワールド館を視察・参観し、さまざまなプログラムを通してクールジャパンを体感し包括的な日本理解に努めた。

中国高校生からはこれらの交流活動を通じて、「日本人の感謝の気持ちを大切にす態度、もてなしの心に深く感動した」「今までの日本と日本人に対する印象が一変した。日本の経済、文化、社会には大いに学ぶところがある」「日本の高校生と交流し、同じ趣味や夢を持ち、共通点もあることに気付いた」「ホームステイはとても緊張したが、家族同様に接してくれて感動した」「今回の体験を家族や友人に

伝え、日中関係の新しい未来に向かって努力したい」などという声が聞かれ、それぞれが日中友好の使者として担う役割を強く意識する貴重な機会となった。本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆ 「JENESYS2.0」 第十八回中国教育関係者代表団 一行 29 名が来日 東京、京都、大阪を訪問

第十八回中国教育関係者代表団(総団長＝王秀雲 中国日本友好協会 副会長、団長＝関立形 中国日本友好協会 秘書長)が、11月19日から11月26日までの日程で来日した。本団は、中国各地の小・中・高等学校の教員並びに教育関係者で構成され、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として、一行29名が招聘された。

代表団は、東京、京都、大阪にて、各種教育機関など専門分野に関する訪問・視察を行ったほか、地方自治体によるブリーフや世界遺産・福祉施設などの参観、日本文化体験など、さまざまなプログラムを通じて包括的な対日理解を深めた。



神代浩 文部科学省初等中等教育局国際教育課長(左4)と談笑する団員(於: 歓迎宴)

20日夜には、同時に来日した中国高校生訪日団第1陣一行61名と合同で歓迎会が開催された。安倍昭恵内閣総理大臣令夫人、程永華中華人民共和国駐日本国特命全権大使、江田五月当公益財団会長らが出席し、両団の団員にメッセージを送った。

日本の教育制度を理解

一行は、東京では文部科学省を訪問し、日本の学習指導要領やカリキュラム、教員研修制度と教員への評価などに関する講義を受けた。また墨田区立隅田小学校、墨田区立寺島中学校を訪れ、施設見学や教職員・児童・生徒との交流を行ったほか、品川女子学院を訪問して私立の中高一貫校を視察した。小学校では児童の笑顔に迎えられ、中学校では教員と白熱したディスカッションを行い、品川女子学院では中国では数少ない女子校の教育についても理解を深めた。



児童の用意してくれた給食を試食
(於：墨田区立隅田小学校)

京都では京都教育大学を訪問し、日本の教員養成システムについて説明を受け、団員からは活発な質問が出された。また、同学で学ぶ中国人留学生とも交流した。

大阪では、大阪府立今宮高等学校を訪れ、総合学科など同校の特色について紹介を受けた。大阪府によるブリーフでは都市魅力創造

について説明を受けた。それから、大阪府教育委員会との懇談会に参加し、大阪府の教育の概要について紹介を受け、それぞれの教育課題について意見を交換した。

各種教育機関の訪問・視察を通じて、団員は日本の教育制度について理解を深め、それぞれの訪問先での温かいおもてなしに、中国からの訪問が心から歓迎されていることを肌で感じ、交流や協力関係の重要性を再確認したようだった。

歴史文化や自然など、日本の魅力に触れる

そのほか、東京にて国会議事堂視察や皇居参観を行い、京都では周恩来詩碑のある嵐山公園や、世界遺産である清水寺と金閣寺を訪れ、日本の伝統文化である茶道を体験した。大阪では福祉施設 ATC エイジレスセンターやパナソニックセンター大阪の視察、大阪城を参観した。多彩な活動を通じて日本の文化、歴史、自然に親しみ、さまざまなクールジャパンに触れることができた。

団員からは、「日本人の資質の高さや自制心、環境保護意識の高さに驚き、見習いたいと思った。次回は自分の生徒や子供を連れて日本の学校を訪問したい」「日本への訪問交流を通じて、日本の教育制度について深く理解できた。帰国したら生徒や友人達にその素晴らしい教育理念を伝えたい。日本に留学したい生徒がいれば、積極的に応援したい」という声が聞かれ、今後の訪日や交流拡大が期待される。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)



会館行事と人の動き 11/1～30

● 会館行事

- 10/28～11/4 ▶「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第7陣 来日 (11/3 同団歓送報告会)
- 11/2～11/4 ▶後楽寮生 小田原ホームステイ
- 11/19 ▶岸関子賞授与式
- 11/24 ▶後楽寮生 紅葉狩り (新宿御苑)
- 11/7 ▶後楽会気功・中国画教室
- 11/11～11/17 ▶貸美術館催事「第16回国際水墨画交流展」
- 11/18～11/25 ▶後楽会中国旅行 (雲南省麗江、大理、昆明)
- 11/19～11/26 ▶「JENESYS2.0」第十八回中国教育関係者代表団 来日
(11/20 同団歓迎会、11/25 歓送報告会)
- 11/19～11/27 ▶「JENESYS2.0」中国高校生訪日団第1陣 来日
(11/20 同団歓迎会、11/26 歓送報告会)
- 11/21 ▶後楽会気功教室
- 11/26～12/4 ▶「JENESYS2.0」2013年アジア国際子ども映画祭参加訪日団 来日
- 11/29 ▶後楽会会員総会 (小石川後楽園涵徳亭)
- 11/29～12/1 ▶貸美術館催事「第12回天真書法塾発表会」

● 来館・訪問・面会

- 11/15 ▶創価学会 岡部高弘副会長 来館 (武田理事長、小島事務局長)
- 11/26 ▶自治体国際化協会代表団 外交部林松添外事管理司長他 来館 (武田理事長、留学生事業部)
- 11/29 ▶CCTV取材 (江田会長)

● 行事参加、その他の活動

- 11/3 ▶日中国会議員・公務員書道展北京展開幕式 (江田会長、武田理事長)
- 11/9 ▶後楽会(中国)友好聯誼会 年次総会 (武田理事長 他)
- 11/14 ▶飯高評議員ご招待「KOBUDO」コンサート (後楽寮生)
- 11/19 ▶中国留学生友の会主催国会見学 (後楽寮生)
- 11/22 ▶藤沢市訪問・体験学習 (留学生事業部、後楽寮生)
- 11/23 ▶池袋防災館体験見学 (留学生事業部、後楽寮生)



発行

2014年1月1日発行 第295号

公益財団法人 **日中友好会館**

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811-5317 FAX(03)3811-5263

<http://www.jcfc.or.jp/>